



希望の鐘 2023

2024.1.10

No.14

やる気、思いやり、根気・元気

学校教育目標：「人と人とのつながりの中で、自ら学び続ける、心豊かでたくましい子どもの育成」

～校長室からこんにちは～ 令和6年(2024年)がスタートしました



令和6年(2024年)がスタートしました。校舎には、子どもたちの元気な声が響き、休みの日の静けさとは一変、にぎやかさが戻ってきました。

このお正月、みなさんはどのように過ごされましたでしょうか。今年も健康で幸せな年になるようにと、願いを込めてお参りをしたり、家族や親せきが集ったりして過ごされたのではないのでしょうか。

そんな中、石川県を中心とする北陸地方で震度7という大地震が発生し、甚大な被害が発生し、多くの方が被災されました。被害にあわれた方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りいたします。

この地震の特徴は、その規模の大きさに加え、1月1日つまり、元日に発生したところにあります。「自然災害はその被害を忘れたときに再び起こるものだ」という戒めで使われてきました。確かに1995年の阪神淡路大震災、2011年の東日本大震災をはじめとして各地で大きな被害をもたらしてきた地震は人々がその被害を忘れるぐらいのタイミングで発生しています。それに加え、今回の地震はお正月、つまり、人々の多くが休日で日常生活とは異なる状況、社会的な機能がほぼ停止している状態で発生しているところが大きな特徴です。その時の私の頭の中には「まさか、お正月に大地震なんて起こるはずがない」といった考えどころか、「地震」という言葉すら全くなかったというのが正直なところでした。



先ほどのことわざでいうと「忘れた頃」に災害は発生するというこれまで通りの意味もありますが、「いつでも」災害は発生するということでもあります。普段そこで暮らしていない人たちがふるさとして過ごすために帰省し、被害に遭われた方が大勢います。休日でしたから災害への対応の初動にも何らかの影響はあったでしょう。だからこそ私たちは、常に「備え」をしておかなければならないことを改めて痛感させられました。学校における防災についても今一度、点検を実施し、併せて子どもたちへの教育も行っていかなければと思いました。

さて、今日の始業式では、各クラスの代表者が、冬休みの思い出とともに今年の目標を発表してくれました。2学期の終業式には「一年の計は元旦にあり」という話をしました。目標をたて、それを実現していくためには、より具体的に計画をたてるのが大切であるという内容です。もちろんたてた計画が予定通り進められるとよいのですが、うまくいなくても途中で見直し、修正することを大切にしてほしいと伝えました。ぜひ、お子様の「一年の計」について、話し合ってくださいようお願いします。

令和6年(2024年)は、希望ヶ丘小学校創立40周年の記念の年でもあります。これまで先輩たちが築いてこられた希望ヶ丘小学校の伝統を大切にするとともに、新しく時代に合った取り組みも進めていかなければなりません。希望ヶ丘地域の学校として、地域とともに取り組むコミュニティスクールへの移行をめざしています。



最後になりましたが、保護者の皆様には、引き続きご支援ご協力をよろしくお祈りいたします。